

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について

三重県教育委員会

平成 30 年 11 月

平成 30 年 4 月に実施された「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」の結果が、7 月 31 日に文部科学省から公表されました。

本県では、全国の平均正答率を上回ったのは、10 教科中 1 教科（中学校数学 A）にとどまりましたが、小学校では、昨年度に比べ「国語 A」「算数 A」で全国の平均正答率との差が縮まり、中学校では、小学校 6 年生時と比べ「国語 A」「数学 A」「理科」で全国の平均正答率との差が縮まりました。

また、児童生徒質問紙調査からは、「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合が増えていること、「新しい問題を解いてみたい・できるようになりたい」と回答している児童生徒の割合や地域と積極的に関わっている児童生徒の割合が全国に比べ高いことから、たくさんの大人に見守られる中で子どもたちの自尊感情や、やる気が育まれていることがうかがえます。このことは、市町等教育委員会と学校とが、家庭・地域と連携し、取組を進められたことによるものだと考えます。

一方、小学校国語・算数、中学校数学の活用力を問う B 問題で全国との差が広がるとともに、経年的な課題である「文章を正確に読み取り考えを書くこと」（国語）や「割合・図形」（算数・数学）について改善につなげることができませんでした。これまで様々な取組を進めるなかで、子どもたちの学習内容の理解・定着状況を確認することが不十分であったと考えます。

今回の結果をふまえ、各学校においては、学習内容の理解・定着状況を確認するための取組や経年的な課題の改善に向けた取組を進めることが、また、家庭・地域においては、引き続き課題である生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立に向けた取組を広げていくことが大切です。

子どもたちの学力が向上することは、自尊感情・自己肯定感やチャレンジする力を高め、将来の夢を実現するための可能性や選択肢を広げることにつながります。私たち大人一人ひとは、子どもたちのために、そのやる気や頑張りに応じていく必要があります。

現在、みえの子どもたちの夢や希望をかなえる学力を育てていくため、県・市町等教育委員会、学校・家庭・地域が一体となって「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」に取り組んでいます。子どもたちの豊かな未来の実現に向け、引き続き県民の皆様方の御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

～全ては「子どもたちの笑顔」のために～

※調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「5（5）調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。（P. 61 に抜粋して掲載しています。）